

香港開拓アジアに拡大

日本の食料輸出のおおよそ25%が香港向けである。人口わずか700万人程度のあの小さな地域に、日本の食料輸出の4分の1が行っているというところを、どう解釈したらよいのだろうか。

それだけ香港は日本の食料輸出にとって重要な場所であるということなのか、それともそれ以外の国で日本の食料輸出がまだあまり成功していないということなのか。多分両方であろう。

香港のスーパーマーケットに行けば分かるが、日本の食料品が溢れている。豊かになった香港の人

元重 伊藤

機構大教授 伊藤 元重
研究開発 伊藤 元重
理事 伊藤 元重

の食生活の水準は、日本とそう変わらない。小さな国土であるので、香港内で食料が生産できるわけではない。お隣の中国から食料を輸入することも可能であるが、安全性の問題などがあるので、香港の人たちが中国産の食料をそれほど好むということもないようだ。

食料輸出の可能性と戦略

同じような所得水準で質の高い食料を求めようとするれば、日本や台湾からの輸入となるだろう。おそらく台湾からも多くの食料を輸入しているだろうが、日本にとっても香港市場は重要な輸出先となっているのだ。

こうした事実は、今後の日本の食料品の輸出を考える上で、いろいろ

拓の努力を、アジアの他の地域でも展開する必要がある。上海や広州、台北、バンコク、シンガポールなど、人口数百万人あるいはそれ以上という香港と比較できるような都市で、比較的多くの富裕層や中間所得層が住んでいる街が市場開拓先としては有力である。こうした地域で香港向けなみに食料輸出をすることができれば、日本全体の食料輸出額は大幅に拡大するはずだ。

これは上海や台北など、他の大都市でも同じだ。大都市は、その国の市場の重要な窓口となる。そこで成功すれば、周辺の地域に市場を広げていくことが可能となる。静岡県の食料品もアジアに輸出できるはずだが、特定の市場に絞った戦略的な輸出の取り組みが必要だろう。

大都市から市場攻略

多くの企業が香港市場での食品販売に力を入れるのは、香港市場だけの理由ではない。香港には、昨年だけで3500万人の人が来たという。その大半は中国人だ。特に、香港の隣にある人口1億人

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。